

2023年度 パレット保育園・高田 事業報告書

●保育理念

“ひとりひとりに生きる力を！”

1. ひとりひとりを「大きな家族」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。
2. ひとりひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。
3. ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます

●保育の目標

スタッフは園児が喜びをもって自発的に活動できるような言葉かけをし、自らがお手本となるような行動をとる。

スタッフは子どもたちの安全・安心で健康的な生活を確保し、主体性を尊重しながら保育する。

スタッフは家族の一員としてお互いを認め合い、子どもたちの成長のために、全員で一人ひとりの子どもたちを受けとめていく。

●保育の方針

「保育所保育指針」に準じ、保育・養護の視点と発達・教育の視点で、「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」の五領域を縦断的にとらえ、子どもの成長に合せ、子どもの力を最大限に引き出すよう努めます。

1. スタッフの基本行動原則「丁寧・賞賛・感覚・微笑・予習＝余裕」に基づき、保育者チームは、大きな家族の構成員として見守る保育を実践します。
2. “個性豊かで元気な頭の良い子”を願う保護者のニーズに応えられる「幼児プログラム」を実践します。幼児教育プログラム実践の要諦は、子ども自身の「意欲」です。「やりたい、知りたい」という好奇心を大切にします。
3. 自分のことはできる限り自分でできる喜びを得る、そして最後までやり抜く、頑張れる「自立支援」保育を実践します。
4. 縦割り実践教育形態を通じ、小さな子、弱い子を思いやれる、仲間との関係を大切にする、など他者との中で「自律」する力をつける保育を実践します。
5. 自分は愛されている、そして、頑張ればやり通すことができるという「自尊感情」を育み、人間の土台づくりをする保育を実践します。

1. 中期事業計画のテーマ

- 経営の安定化
- 選ばれる保育園づくり

2. 園目標 ～中期事業計画のテーマを踏まえた～

- ・職員。園児、保護者のコミュニケーションを意識し、思いやりの心を持ち、より深く相手を理解する。
- ・ひとりひとりの成長過程に合った援助をする中で、やりたい気持ちを尊重する。

3. 原因分析

達成または未達成の原因および次年度への課題

- ・職員同士のコミュニケーションや言葉の伝え方や伝わり方で誤解を生じることがあった。職員の意識の高さの違いもあるので、全員でコミュニケーションについて再確認しそれぞれが意識するよい機会になった。引き続き次年度もコミュニケーションを意識していきたい。

4. 開所日及び開所時間

事業	開所時間
平日	7:00-20:00
土曜日	7:00-18:00
休園日	日・祝日・12/29～1/3

5. 定員数

・利用定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6	9	10	11	12	12	60

・入所児童数

3月31日時点

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6	12	12	12	13	13	68

6. 年間行事実施日

月	行事等の名称	対象者
5月日	親子レクリエーション	園児とその保護者
6月日	個人面談	園児とその保護者
7月日	夏祭り	園児とその保護者、近隣未就園児
10月日	パレット学習タイム参観	園児とその保護者
10月日	運動会	園児とその保護者
1月日	個人面談	園児とその保護者

2月日	発表会	園児とその保護者
3月日	卒園式	卒園児とその保護者
3月日	入園説明会	新入園児とその保護者
3月日	進級説明会	進級園児とその保護者

7. SDGs に係る取り組み結果

	<p>●質の高い保育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週 Mtg の中で各クラスの一週間の様子や保育のねらいとすることを報告、他クラスと共有することができた。 <p>●気になる子支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児はもちろんだが保護者支援も多様化しそれぞれに合った支援が必要になってきた。園児の特性を理解してもらいながら家庭ごとの支援をしていきたい。 <p>●質の高い給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイキング給食の実施をすることができたが、感染症の流行などにより年度終わり頃になってしまった。次年度も引き続きバイキング給食を定期的に行い食への興味に繋げていきたい。 <p>●能力開発プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週や日々の中で行うことが習慣づき積極的に行うことができた。特に運動プログラムは幼児で週の予定に組み込んで継続的に取り組むことが出来た。次年度も継続していきたい。
	<p>●充実した休暇制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有休を積極的に取ることができたが人により差が大きかったことが課題。次年度はより希望日に取得できるようシフトのスリム化を目指したい。その為には各個人のスキルアップが求められる。
	<p>●働き方向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しは少しずつ行っているが次年度も引き続き行ってより改善していきたい。 ・フロアごとの責任者システムは良い面があったが課題も見つかった。次年度さらに改良させたい。
	<p>●地域交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もなくなり前半は月 1 回程度の子育て支援イベントを実施することができた。入園前に保育園をより知ってもらい身近に感じられ、またパレットの特色をアピールすることで入園に繋がったように感じる。特に 9 月に離乳食の試食会は好評で時期も良かった。次年度も行っていきたい。 <p>●虐待防止、貧困対策への貢献</p> <p>要保護家庭が増えたこともあり行政との情報共有は定期的に行うことは必要と感じた。何かあった際にはすぐに連絡のできる担当者があることは園として有り難い。</p>
	<p>●食品ロスの低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数再計算を行うことで発注過多の見直しができるように感じる。 <p>●設備チェック・整備による使用寿命延長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうど 10 年目ということもあり各所で故障や劣化が起きるようになったが、都度修繕をすることで大規模修繕になることがなく早めの対応の大切さを感じた。 <p>●エコ活動・リサイクルを取り入れた保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃材を利用し『海の家ごっこ』を行うことで、廃材への意識ができたように感じる。次年度も様々な活動に取り入れ意識していきたい。

8. 保護者との連携の報告

- コドモンによる家庭との日々の連絡をおこなった
- 個人面談で園児ひとりひとりの成長や園での様子を報告した
- 懇談会では、クラスの様子を伝え、クラスごとの結果や育ちを報告した
- 送迎時にも限られた時間ではあるが、日々の様子を伝えることで園での生活を知ってもらえるようにした

9. 第三者評価に対する取組（もしくはサービス向上に向けた取組）

- ●年に1回、第三者評価を受審
- 姉妹園施設長による環境整備チェックを実施（カラーボックスにぶつかり防止のコーナガードや転倒防止のストッパーが取れてしまった箇所があったのですぐに取り付けた）
- 次年度は第三者評価受審年なので評価を受ける

10. セルフモニタリングの実施報告

- 園内での怪我や園児による喧嘩などの報告を都度おこなった
- 職員会議や昼礼で、共有した
- 事故防止・園外保育マニュアルを見直し、研修をおこなった

11. 苦情対応・解決の取組

- 園で独自の苦情解決窓口を設置し、解決への取り組みを図った
- 苦情申し立ての流れを保育園の玄関に掲示した
- 第三者委員の連絡先を掲示した
- 運営委員で出た意見ですぐに改善できるものは取り入れることができた

12. 職員の研修

- 年間研修計画に基づき、園内研修を実施した
- 個人ごとの研修計画・記録一覧に基づき、行政等主催の研修に参加した
- 姉妹園での給食スタッフの視察研修をおこなった
- 給食、事務スタッフは年2回の全体研修を実施した
- 救命救急研修はコロナ禍はZOOM研修だったが今年度は地域の消防署に依頼し実践研修を行った
- キャリアアップ研修には積極的に参加することができたが、その際のシフト調整は次年度も課題になる

13. 職員の労働条件・労働環境保持のための取組

- 就業規則、賃金規程、36、32、24協定を制定し、労働基準監督署へ届け出た

- ・ 育児休暇、介護休暇について制定
- ・ 退職金規程を制定
- ・ 法人総務部にて、雇用管理の改善等に関する事項にかかる相談窓口を設置

14. 児童・職員の健康管理

- ・ 園児の健診については年に2回学校保健安全法に規定する健康診断に準じて実施した
- ・ 職員の健康診断は4月、5月、6月に順次受診（人間ドック希望者は個々受診）した
- ・ 中途採用者の場合は、採用前に実施・未実施の確認した
- ・ 感染症予防・衛生管理マニュアルに基づき、研修および感染症の予防に努めた
- ・ 園内で発生した場合は、速やかに掲示またはメール配信にて、保護者へ状況説明した
- ・ 園児、職員で感染症が流行ってしまった。園児に関しては家族内で感染していて発症前に通園したことにより、園内で感染が広がってしまった
- ・ 園医からは、家族間は感染しやすいので園内で感染拡大している際には感染リスクのある園児は休むなどご協力いただけるとよい、とアドバイスをいただくが実際は難しかった

15. 安全安心に対する取組

(1) 事故の防止策と対応策

- ・ 全スタッフ配布のハンドブックに「安全に関する規定」等を掲載し、職員に周知した
- ・ 事故防止・園外保育マニュアルにて研修を実施した
- ・ 1年に1度マニュアルの見直し・改定をおこなった
- ・ 散歩時の人数確認の徹底と帰園時（園内に入った際）の確認は怠らないようにした
- ・ 保育園などで起きた事故ニュースなどがあった際は、すぐに共有し防止に努めた

(2) 不審者対策

- ・ 不審者対策を目的とした避難訓練を年に1回以上実施した
- ・ 不審者対応マニュアルにて研修を実施した
- ・ 1年に1度マニュアルの見直し・改定をおこなった
- ・ 警察署に不審者対応を依頼し園児、職員で実施した

(3) 防火・防災対策

- ・ 毎月避難訓練および消火訓練を実施した
- ・ 消防用設備の点検については専門業者へ委託し、年に2度実施した
- ・ 危機管理マニュアルにて研修を実施した
- ・ 1年に1度マニュアルの見直し・改定をおこなった
- ・ 緊急時対応では消防署への通報訓練も同時に行った

16. 虐待防止の取組

- ・ 児童虐待対応マニュアルにて研修を実施した

- 外部研修へ参加し、研修内容を職員に共有した
- 虐待ニュースが出た際には、なぜこのような事例が起きてしまったのかなど考える機会を持つことで意識することができた

17. 給食に対する取組

- 給食マニュアルにて研修を実施した
- 物語メニュー、あそびごころのある盛り付けチームにて給食の質を向上に努めた
- 年に2回全体研修をおこない、スキルアップを図った
- 幼児クラスでバイキング給食を行い食べることを楽しみ、食べられる量を盛り付けるなどフードロスにも関心が持てるようにした
- バイキング給食は次年度も引き続き行っていきたい